

アイデアソン班ごと発言まとめ

【C 班】

城端線・氷見線を通勤・通学で利用する際、特に朝のちょうどいい時刻に行ける便がない。通勤・通学以外の話になるが、駅がバリアフリーになっていないなど、駅の使いにくさについて、不便に感じる点が挙げられた。

改善策については主に利便性の向上（増便・ダイヤの改善）、駅の機能改善（バリアフリー化、駐車場整備、駅の名称変更）これらを実現するための資金調達（クラウドファンディング）が挙げられた。

◇現状で不便な点

- ・氷見線で富山まで通勤しようとするちょうどいい時刻の列車がない。6:30 に乗らないと間に合わないので、車で通勤している。
- ・7:04 新高岡駅発の城端線で通学しているが、早く着きすぎてしまう。この便に乗るために早起きしなければならない。
- ・駅についてどこから乗るのか聞かれた時に南口・北口と言ってもなかなか伝わらない。
- ・遅延が多くて、通勤に遅れてしまう恐れがある。
- ・雨や雪で列車がすぐに運休してしまう。
- ・城端線の駅は高齢者に優しくない。（バリアフリーではない）

◇考える改善策

- ・駅の南口、北口という表現をやめて市民が馴染める名称にする。（例：砺波駅南口→チューリップ公園口）
- ・パークアンドライド（スーパー駐車場も利用券を買って使えるように）
- ・高校再編で駅に近い高校を残す、または増やす。
- ・車両全てに Wi-Fi を付けて、生徒が学習などに使えるようにする。
- ・朝晩の便数増

◇その他

- ・市が駅をバリアフリーにしたいと言っても JR 側がいいと言わないと実現できない。（市は認識している）
- ・早く着きすぎてしまう学生のために本来、学校を開ける時刻でなくても開くのが当たり前になっている。（警備員のサービス精神によるもの）
- ・帰りはそこまで不便に感じていない。待ち時間は図書館で勉強したりしている。→砺波高校生の利用率が高すぎて要予約、かつ最大 2 時間程度に制限が掛かるようになった。

以上